

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372002200		
法人名	株式会社シミズ		
事業所名	グループホーム ジョイア・ミュキ 東ユニット		
所在地	愛知県豊橋市東幸町字長山8番地の1		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosyoCd=2372002200-00&PrefCd=23&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、生活環境面では、余暇時間の活用として、レクリエーションの充実と質の向上を行っている。認知症の症状悪化に伴い、集団行動ができない方には、個別ケアを取り入れ、本人様に合った楽しみや作業を模索している。その他にも、食事前の口腔体操を取り入れ、食を通じた健康管理にも気を付けている。職員教育として、プリセプター制度の活用、職員のスキルアップの為、外部研修や交換研修の充実、施設全体の質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの他に共用型デイサービスを実施していることで、日常的に実施するレクリエーションが増えており、利用者の活動の機会にもつながっている。食事面についてもメニュー内容を見直しており、利用者が毎日の食事を楽しむことができるような取り組みにつなげている。家族との関係についても、ホームで実施している敬老会等の行事の際には、多くの家族の参加が得られており、家族との交流の機会をつくっている。職員との個別の面談の際には、法人代表者も参加しており、職員一人ひとりの把握と職員からの意見等が運営に反映できるような取り組みが行われている。また、ホームでは新たに職員の育成に力を入れており、介護技術等について基礎的な分野から研修を実施する取り組みが行われている。職員一人ひとりに合わせた対応を行うことで、職員の資質向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作り、事務所に掲示し、毎月会議で唱和し共有している。	ホームの基本理念をつくっており、職員間で日常的に唱和し、理念を共有する取り組みが行われている。また、理念に基づく、運営方針と行動指針を掲げていることで、理念の実践につながる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事は、入居者と共に参加・交流している。毎日の買い物や月1回の外食などで、地域の店も利用している。	ホームは町内会に入っており、地域の行事の際に利用者が参加したり、ホームの敬老会等の行事の際には、地域の方が参加する関係が築かれている。また、近隣で盆踊りを開催する際には、ホーム駐車場を開放する協力が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入所相談、運営推進会議、地域との交流の中で認知症施設である事をアピールし、相談義務へとつなげていっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は、新たに町内の区長にも参加いただき、地域と協力できるように話し合い、助言や意見を積極的に取り入れる体制作りを行っている。	会議の際には、多くの写真を掲載した資料を提供することで、出席者にホームへの理解を深めてもらっている。また、地域の様々な分野の方の参加が得られており、運営に関する助言を頂く等、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当の方とは日頃から連絡を取り、報告や助言をいただき、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市内の介護事業所が集まる講習会に参加したり、市の研修会を通じた情報交換等、協力関係をつくるよう取り組んでいる。また、地域包括支援センターとも情報交換等の機会をつくるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関のみ施錠してあるが、帰宅願望、不穏時には話を傾聴することでBPSDの緩和に努め、見守りで身体拘束をしないケアに努めている。	ホーム玄関については施錠されているが、ホーム内は開放されており、ユニット間の移動や中庭への出入りが可能である。また、現管理者より職員研修の機会を充実するように取り組んでおり、身体拘束のない生活を継続するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の勉強会、研修は職員も参加している。言葉遣いを含め、精神的虐待にも気を付け、そのような事が無いよう、常に相手の気持ちに立った介護が出来る様話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、職員は研修など学ぶ機会があったが、話し合ったり活用できるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際は十分に時間を設け説明を行いサインを頂いている。入居後も疑問があった場合はすぐに返答し、連絡報告を密に行い不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱は設置し、ご家族に意見は聞きやすい工夫をしている。来所時には、必ずご家族と話をするように心がけており、出た意見は会議にあげ対応、その場で返答している。	ホームで開催している行事の際には、多くの家族の参加が得られており、交流の機会をつくっている。運営推進会議や行事の際には法人代表者も参加しており、家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	半年に一度面談を行い、一人一人のスタッフに意見を求めている。意見は会議に取り上げている。東西ユニット職員と主任で、業務に関する意見交換会を継続し、現場の改善に反映させている。	毎月の職員会議が行われており、研修会の実施と合わせて、管理者が職員からの意見等の把握に取り組んでいる。また、法人代表者も職員との個別面談の機会をつくっており、職員からの意見がホームの運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今年度、就業規則の見直しを行った。普段から、職員が自分たちの意見が言える環境、実行できる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	プリセプター制度を継続し、新人職員のフォローと、教える側の職員の育成にも取り組んでいる。また、自分たちのやりたいことを実践できる企画書や、研修に参加できる資料提供を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他施設へ行き1日勉強させて頂いたり、様々な講習会に参加、スタッフ全員が参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前情報と本人の入所後の様子や訴えなど、スタッフ間で共有する。傾聴する時間の確保、個別ケアによる余暇時間の活用にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	来所時には、出来る限り家族と話をすることで、家族の思いを把握する。また、入居者の状況に変化があれば必ず報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の要望や本人の様子など観察し、事前情報などを参考にしその人に合った支援が行えるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	業務を優先するのではなく、本人が出来る事は時間がかかっても本人に任せる事を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の現状の情報を家族と共有し、家族だからできる支援や行事。誕生日会への参加を促し、利用者支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつもの美容院や洋服店に連れていってもらう方、馴染みの方が面会に来る事はあるが、利用者全員に支援は出来ておらず充分ではない。	入居前からの関係の方がホームに訪問したり、家族と美容院に出かけている方もいる。職員が利用者の馴染みの場所の把握を行い、そこへ出かける等の取り組みも行われている。また、自宅に戻り、家族と過ごす機会が得られている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の馴染みの関係を把握する事や、家事、行事など利用者全員が参加、交流を図る様努めている。他者と上手に馴染めず孤立してしまう利用者もおり、個別ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転所する場合は、持っている情報を先方へ提供し、スムーズに移行できるようにしている。転所後の様子も見学に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の理解ができるように、年3回の全体研修にテーマとして取り入れ、入居者の行動などを観察し、その人らしく生活出来る様努めている。	職員間で担当制も活用しながら利用者の把握が行われており、一人ひとりの意向等の反映につなげている。また、利用者毎にカンファレンスの時間を設けており、職員間で意見交換を行いながら、職員間での共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その人の生活歴を把握し、話題に触れ、そこで得た情報、趣味や遊び、などを取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の体調・状態に合わせ、穏やかな気持ちで落ち着いて過ごせる環境づくりに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なモニタリングだけでなく、気づきのあったスタッフから情報収集し、それについて会議で話し合いケアプランに反映、振り返り作業を行っている。	介護計画を3か月で見直しを行っており、担当職員も参加しながら毎月のチェックが行われている。また、介護計画の内容については、日常の生活場面に分けて作成しており、職員が日常的に支援内容をチェックする取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	1日の様子や状態を、個別記録で確認し、申し送りで情報を共有し、改善にも繋げている。職員間専用の申し送りのノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	病院受診や急な発病時、不足品の買い物など、家族の都合がつかない時など代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内の行事や地域の保育園や学校と交流をはかり、地域の方との触れ合い、楽しい時間を過ごすことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科往診時、身体の状態を報告や健康相談、それ以外も不調症状がある時は電話相談や受診、家族への報告をしている。	協力医による定期的な訪問診療が行われているが、今までのかかりつけ医を継続している方もおり、受診の際にはホームから情報提供が行われている。また、ホームでは看護師を2名体制に移行しており、日常的な医療面での支援の充実につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者の全員観察を心掛け、気になる事は、看護師・施設長と相談をして、必要時には医師へ連絡するなどの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族と共に医療機関と連携をはかり、入居者の状態把握を行い出来るだけ早期に施設に戻れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期の受け入れ態勢は、行っていない。また、重度化した場合に備えて、家族とは状態に合わせて随時話し合いを行っている。	現状、ホームでの看取り支援については想定しておらず、入居時に家族への説明が行われている。利用者の身体状態等に合わせ、特養に申し込んでもらう等、家族との話し合いを重ねながら次の生活場所への移行支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応マニュアルを作成している。消防署での救命訓練を受けた職員もいるが、新しい職員は、講習を受けてはいない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年3回の避難訓練を行っており、地域の方にも参加してもらっている。今年度も、災害想定訓練も行い、備蓄品なども確認している。	避難訓練を年3回実施しており、夜間想定や地震想定等、様々な場面を想定した訓練を実施している。地域の方とも段階を経ながら協力関係の構築に取り組んでいる。また、ホーム内に水や食糧等の必要な備蓄品の確保が行われている。	地域の方とは、相互の協力関係につながるよう引き続き、密な連携に期待したい。また、ホームでもマニュアルの見直しを行っており、今後のより良い取り組みにつながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日常生活の中で、入居者一人一人のレベルに合わせた対応や言葉かけを行っている。時には、個別対応も行っている。	基本理念に基づく運営方針を掲げており、職員間で日常的に唱和することで、利用者への言葉遣い等の対応に関する振り返りにつなげている。また、接遇面に関しては、ホーム内で職員研修を実施しており、管理者からの注意喚起等が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の希望を聞いたら、出来る限り叶えられるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の好きな過ごし方を尊重して、レクや行事などは本人の意思で参加してもらっている。また、その人に合った楽しみを見つけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来る事は自己にてやって頂き、手の行きとどかない所はお手伝いしている。希望者には化粧道具の提供も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員だけで準備せず、入居者の方達にも出来る事は手伝ってもらっている。	利用者の好みや嗜好にも配慮してメニューを考えるように、今年度から見直しを行っている。利用者も下ごしらえや片付け等のできることに参加した取り組みが行われている。また、おやつ作りの取り組みや定期的な外食の楽しみもつくりされている。	食事の提供に関しては、ホームでも見直しが行われている。現状、利用者と一緒に食事を行う職員がいないこともあるため、今後の検討の中で、職員が食事に同席する機会が増えることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事と水分補給は声かけをし、本人のペースで摂取していただいている。また、自助具の提供を行い、食事摂取量や水分摂取量の把握にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ポリドントや歯磨きで清潔を保てるように、口腔ケアの確認をしている。食事前には、口腔体操を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排尿のチェックを行い、時間でトイレ誘導や、動作で尿意を察してトイレ誘導を行い、出来るだけトイレを使用するようにしている。	利用者の身体状態等に合わせた、排泄状態の記録を残しており、日常的に職員間で情報を共有しながら、トイレでの排泄が継続するように取り組んでいる。看護師が勤務している体制でもあるため、利用者の状態等に合わせた医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝コーヒー牛乳の提供、往診時に腸音の確認、必要時腹部のマッサージや運動、下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	2日の1回の入浴とし、基本入浴時間は決めているが、順番などは、状況に応じて入浴できるようにしている。拒否がある場合には無理強いせず、日を改めて行っている。	毎日の入浴の準備が行われており、入浴を拒む方についても声かけ等の工夫が行われている。浴室につかまることができるポールを立てる等、重度の方も浴槽に入りやすくする工夫が行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	時間毎の巡視で入眠状態や、室温管理をし、安心して休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を、いつでもみられる所に設置。職員による服薬管理を基本とし、症状の変化に気づいた時は看護師・主治医へ報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	余暇時間の活用を考え、個別ケアやレクリエーションを毎日継続して行えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節の良い時は公園など散歩に行ったり、毎日の買い出しに同行してもらったりしている。毎月の外食企画や家族への手紙の活用で、本人の希望を伝えている。	日常的にホームの向かいにある公園に散歩に出かけたり、食材の買い物を通じて出かける機会をつくっている。ホームでは毎月の外出行事を行っており、外食の機会を多くつくることで、利用者の楽しみにつなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個別で金銭管理を施設で行っている。本人が希望されるものに関しては、家族に了承確認し一緒に買いに行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者からの訴えがあった場合、施設よりご家族様へ電話連絡や、家族への手紙で報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合ったフロア装飾作りや空調、衛生管理に気をつけ、落ち着いて過ごしやすい空間作りを心掛けている。(多機能空気清浄機、室温管理)	共用型のデイサービスの利用が増えたこともあり、利用者の席の配置の工夫等、日中をゆったりと過ごしてもらえるような取り組みが行われている。また、リビングから中庭に出ることができることで、利用者に季節を感じてもらい取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアに2~3人掛け用のソファがあり、憩いのスペースのようにになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時より、自宅で使用していた馴染みの物などを用意して頂くようにしている。	利用者、家族の意向等により、馴染みのある家具類を持ち込んでいる方やシンプルな雰囲気の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、趣味の物を持ち込んでいる方もあり、快適に過ごしてもらえるような取り組みが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入口に手作りの表札をつけたり、持ち物にも名前を付けていただき、混乱を避けている。トイレや風呂場も大きい文字で分かりやすくしている。		